

2022年度第3四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2023年2月13日（月）16時00分～17時00分
当社出席者 : 常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答 :

【全体】

- Q) 自社株買い実施の背景について。
- A) 当初想定よりもコロナ禍からの業績回復をスピーディに進めることができた。時計事業、工作機械事業の主力に事業の回復に手ごたえが感じられている中で、世界的にもコロナ収束が見えてきており、今後大きな将来不安はないものと考えた。また、有利子負債の返済も進めることができ、資本効率の向上を早期に図る目的で実施した。金額については、企業価値向上に関する東証の方針等も考慮しながら決定した。
- Q) キャッシュアロケーションについて。成長合理化投資、財務体質強化、株主還元のバランスをどう考えているか。
- A) 時計事業は自動化・合理化投資が中心。工作機械事業を中心に生産能力の拡大を進めており設備投資は積極的に行っている。中期経営計画で示した、成長・合理化投資 600～700億円の規模は維持する。財務体質強化と株主還元のバランスでは株主還元を強化。

【時計事業】

- Q) 北米市場においては景気後退懸念の高まりを受け販売状況が悪化している製品もあるが、シチズンの時計完成品は市況感と異なる動きをしているのか。
- A) 北米市場において期末に当たる12月は顧客側が厳しく在庫を絞る時期にあるが、当社の在庫水準は適正。北米市場にはCITIZENブランド、BULOVAブランドがあり、ブランドプレゼンスが高い地域。コロナ収束に伴いクルーズ船を中心としたトラベル流通の回復が強い勢いを持っており、いい数字を出せている。スマートウオッチと競合しない価格帯へのシフトを進めており、成果が出てきていると認識。
- Q) 時計販売は価格帯によって違いが出ているのか。
- A) 普及価格帯と言われるファッションブランドはスマートウオッチの台頭により苦戦しており影響が出ている。ムーブメント販売はファッションブランドが中心顧客であり、伸び悩みが見られている。一方でCITIZENブランドのうちプレミアムブランドなどは前年比4割弱伸ばしている。『CITIZEN ATTESA』も20万円以上が好調。北米市場でも直販ECを活用し、国内向け中心の「HAKUTO-R」モデルが売り上げトップ5入りするなど高価格帯の動きが活発になっている。単価上昇に向けて『CITIZEN PROMASTER』などを投入し、市場ごとに取り組んでいる。

Q) 国内市場におけるインバウンド需要の状況について。

A) 10月から外国人観光客の受け入れが再開され空港免税店等で販売が増えたが、まだ大きな割合を占めるには至っていない。インバウンド需要のメインはやはり中国人観光客であり、今後の動きに期待している。

【工作機械事業】

Q) 受注は減少傾向にあるようだが、今後の見通しは。

A) 受注は全般的に減速傾向にあるが、一本調子で下がっていくイメージはない。2023年度スタート時点で半年分以上の受注残を抱えている見込みであり、少なくとも2023年度上期まではフル生産で対応していく準備をしている。

Q) 値上げ効果が得られる時期はいつ頃になるか。また、どの程度の寄与が見込めるか。

A) 部材調達環境は改善傾向にあるもののまだ余裕がある状況ではない。対策を取りながら徐々に生産出力を上げていきたい。値上げ効果は、2023年度初めごろから徐々に寄与してくる見通し。

【デバイス事業】

Q) 今後の見通しについて。

A) 2022年度第4四半期はまだ厳しい見通し。自動車部品は自動車メーカーの生産調整が長引いており影響を受けているが、徐々に回復を見込んでいる。オプトデバイスはまだ回復時期が見通せておらず、対応を考えていきたい。

以 上